

「評価結果の概要」

センターが把握している圏域の特徴

- ・圏域人口：56,587人(↑)
- ・高齢者人口：13,770人(↑) ※矢印は前回との比較
(克明3,032人(↑)、桜塚2,452人(↑)、熊野田2,678人(↓)、
南桜塚2,924人(↑)、泉丘2,684人(↑))
- ・高齢化率：24.33%(↑)
(克明28.08%(↑)、桜塚24.49%(↓)、熊野田23.78%(↑)、南桜塚22.93%(↑)、
泉丘22.82%(↑))

<中部圏域の特性について>

豊中市の中心に位置し、阪急豊中駅、岡町駅、曾根駅各駅前の商業地域、戦前から高度成長期にかけて開発された住宅街の克明、桜塚、南桜塚各校区、農村地域だった熊野田校区、マンション群や団地の建ち並ぶ泉丘校区の5校区からなる。校区によりニーズが異なるため、各校区の実態に合わせた取組みが必要と感じている。

センターの取組方針や特徴

【センターの運営方針】

地域包括ケアシステム構築に向け、「地域に住む支援が必要な高齢者を、一人も孤立させない」という心構えを持って、「高齢者になっても安心して暮らせるまちづくり」を最終的な目標とし、地域支援を推進していく方針に基づいて各事業に反映している。

【特に力を入れて活動している点】

「高齢者になっても安心して暮らせるまちづくり」を実現するために、コミュニティソーシャルワーカーと連携しながら絶えず地域に出向いて、状況や課題を的確に把握し、各校区の持つ特性や強みを活かすことに力を入れている。

【活動の中での課題やその解決策】

問題を抱えていても自ら声をあげない、誰からも気づかれない高齢者が地域に存在している。「きめの細かいセーフティネットを構築」することで、孤立した人、支援を必要とする人をのがさないようにすることを課題にしている。

「きめの細かいセーフティネットの構築」には、人や組織や機関とのつながりを増やし、その1本1本の線を太くする必要があると考えている。セーフティネットの網の目からこぼれ落ちない体制を作るために、より細かいネットワークづくりに向けて、絶えず地域に出向き、住民との交流により点と点をつないで線に、線と線をつないで面に変えることが解決策に通じるとの考えのもと、活動を続けている。

【その他】

本センターと分室が途切れないように、日々の情報共有にあたっては、インターネットを活用した朝礼、月2回の職員会議を通して担当する校区や事業の共有を図っている。本センター、分室それぞれにおいて、週2回以上支援ケースの進捗を図る会議を行い、毎日夕方には共有すべき事案についての聞き取りを全職員に行っており、職員間のコミュニケーションの機会を増やすことで、職員一人で悩みを抱え込まず複数の視点を取り入れながら相談支援に取り組んでいる。

総評

【特徴的な取組内容】

- ① コロナ禍で孤立する高齢者が増加しており、従前から取り組んでいる、「きめの細かいセーフティーネット構築」をめざした地域との連携やネットワークづくりのいっそうの拡充に努めています。また、増加する「高齢者の*フレイル」予防の取組みが重点的に行われています。

*フレイル

加齢とともに心身の機能が衰えた状態のこと。早めに気づいて対応することで、要介護状態になる可能性を下げることができます。

- ② 増加する権利擁護関係の相談に対し、キーパーソンである養護者（同居する配偶者や子ども等）へのアプローチや支援の必要性を十分認識し、地域と連携し、相談支援に取り組んでいます。
- ③ センター職員が運営法人の多岐にわたる事業について理解を深め、その活用や連携を図ることで、運営法人の得意分野を活かした支援の質の向上、地域活動の拡充等につながっています。

【さらなる質の向上の余地がある点】

- ① 職員個々のスキル等をふまえた計画的な研修計画の立案が望まれます。
- ② 介護予防ケアプランを作成する際、利用者や家族の意向と計画目標の関係性をよりわかりやすくすることで利用者が目標を自分で評価しやすくなるとともに、次の計画作成の意欲の向上に資すると考えられ、*自立支援型ケアマネジメントの実施につながります。地域包括支援センターの職員のみならず、委託先のすべての居宅介護支援事業所の介護支援専門員が自立支援型ケアマネジメントを実施できるよう、研修・勉強会等を通じた介護予防ケアプラン作成のさらなる質の向上が望まれます。

*自立支援型ケアマネジメント

自立支援は、単に「できないことを代わりにやる」という意味での支援ではなく、可能な限り自分でできることは自分で対応し、「できないことを可能な限りできるようにするため」の支援のことを言います。自立支援型ケアマネジメントは、自立支援の考えに即して、機能訓練、生活援助や地域参加などのサービスを組み合わせて実施されるケアマネジメントを意味します。

③ コロナ禍の中、新しい生活様式をふまえたさらなる取組みの工夫が望まれます。